8・9月

カトリック麹町教会

MAGIS

Ignatius 500

イグナチオ年

マジス ＝ 「より、もっと、さらに」

2021年度 教会テーマ

困難の中で、イエスとともに希望の扉を開いていこう
祈り、つながり、協働する　2030年に向けて一歩ずつ

聖イグナチオと私

もし、この私がするとしたら…

上智学院カトリック・イエズス会センター長　李 聖一

イグナチオ・デ・ロヨラという人に直接会ったら、どんな気持ちを抱くだろうか。おそらく、怖くて顔を上げることはできないだろう。あの風貌と鋭い眼光を見ただけですくんでしまうに違いない。少なくとも私はそうである。

「騎士イグナチオ」ゆえに、甲冑に身を包んで、駿馬にまたがり、槍を手に、敵に向かっていく堂々とした姿を想像していたが、実際は身長が150センチほどだったという。回心後の旅するイグナチオは、巡礼着をまとい、底がぺったんこの靴を履き、杖を手に托鉢しながら、足を引きずりつつ、とぼとぼと歩いていた。

写真左下は、当教会で行われた叙階式での李神父（1985年3月16日撮影）

そんな彼になぜ同志が集まったのだろう？　なぜ今日にいたるまで彼を慕い、イエズス会に入ってくる若者がいるのか？　イエズス会の歴史を学べば分かるのだが、イエズス会の聖人の4分の3以上は殉教者である。なぜ命をかけてまで入会し、そしてミッションに生涯を捧げたのか？

逆にイグナチオが私を見たらどう思うだろう？　私がイエズス会に入りたいと言って彼と会ったら、彼はどう思うだろう？　あるいはイエズス会員として生活している私を見て、彼は何と言うだろうか？

こう想像すると、今の時代に生まれてきてよかった。ちょうどよい時にイエズス会に入ったものだと思う。彼の時代に私が生きていたら、たぶん入会しなかったに違いない。いや、入れてもらえなかったに違いない。

『自叙伝』を新たに編集しながら思ったのだが、彼は気難しい人だったに違いない。口述筆記したカマラ神父の序文を訳しながら、そう確信した。最晩年は病気がちだったし、さまざまな仕事に忙殺されていただろうし、ミサを捧げながら涙を流し続けたし、突然の神秘的な体験に襲われていたし…。そんな人のそばで話を聞きながら、カマラ神父は一字一句違えず書き記す。それは大変な作業だったであろう。しかも、口述は突然中断されたり延期されたりした。「カマラさん、あなたは偉い！」

聖イグナチオのような偉大な人は、直接会うよりは、書き残されたものや伝記などを通して間接的に知る方がよいのかもしれない。その人の生きた時代背景を調べたり、生涯の系譜をたどったりしながら、想像するのである。その方が親しみやすさを感じたり、自分だったらどうするだろうかと考えたりするからである。

そういえば、彼の回心のきっかけは病床時に読んだ二冊の本だった。『キリスト伝』と『聖人伝』。そして、「聖フランシスコがしたこと、聖ドミニコがしたことを、もし、この私がするとしたらどうだろう」と想像したのである。

私も聖イグナチオのことをあれこれと思い巡らせる。「イグナチオはこうだった、ザビエルはこうだった」と想像しながら、「私がするとしたらどうだろう？」と問いかける。こういうところから、イエズス会に入りたいと私は思ったのかもしれない。

教会報 MAGIS ８月・９月合併号

† 「新しい協働」フォーラム ②　2-3頁
† イグナチオ年特集　4頁
† 「オンライン入門講座」⑤（終）　5頁
† 「7月のお知らせ 2」から
　イグナチオ年全免償（全贖宥）　6頁
† 教会施設 “修繕・保全報告”　7頁

共同体を生きる

【8月の共同祈願】

スポーツに関わる全ての方々のために祈ります。

体を動かすことを通して、心と体の健康が守られ、

私たちの寛容さと謙虚さをもって、

人々の一致をもたらすものとなりますように。

担当：五輪対応プロジェクトチーム

【9月の共同祈願】

すべての高齢者の幸せのために祈ります。

人々の祈りと助けを受けて、

日々の心の安らぎと安息が得られ、

平安に暮らすことができますように。

担当：壮年会

ミッション2030

第2回「新しい協働」フォーラム
「支え合い、できることをしよう！
『福祉』にかかわる活動を考える」をテーマに

ミッション2030の第4の柱である「新しい協働」。昨年度コロナ禍により開催できなかった2回目のフォーラムが、7月4日（日）にヨセフホールにて開催されました。対面とオンライン（Zoom）の併用で行われ、参加者は合わせて約百人でした。

お祈りに続き、英主任司祭がテーマと新たな試みについて話をされ、次いで12の福祉関連活動グループから活動内容と現状が紹介されました。その後、数グループにわかれ熱心に分かち合いを行いました。

主任司祭の講話1

これからの課題は、福祉に関わる活動グループがお互いに理解を深め、情報交換をしながら新たな協力体制を作っていくことです。フランシスコ教皇の『福音の喜び』にあるように、閉じこもらず出向いていきましょう。昨年4月の緊急事態宣言で、都内の支援団体が次々と活動を休止する中、「カレーの会」「おにぎり仲間」「あしたのいえプロジェクト」は活動をとめませんでした。危機的な状況ほどこのような活動が必要です。できる限り、手をさしのべる。福祉関連活動グループはことさら、この意識を持って歩んでいってほしいです。

関東直下型地震の対応

教会の建物が倒壊していないことが前提ですが、被災していない信徒とともに、その日から震災直後の帰宅困難者に向けて当教会で炊き出し、ボランティアの派遣、支援物資の配布などを行いたいと思います。コロナ感染症が収束する時期を見ながら、防災小委員会と活動グループとともに具体的な計画を練っていきたいです。

福祉関連グループから

①水曜ティーサロン

2011年より、平日12時のミサ後に信徒同士のつながる場所を提供しています。第2・3・4水曜、ミサ後から14時まで、テレジアホールにてコーヒーと紅茶を飲みながら親交を深めています。メンバーは15名、今後は若い世代に引き継ぎたいと思っています。

②訪問グループ

80歳以上の信徒の要望を関連グループに取り次いでいます。クリスマスカード、イースターカードを作成し発送、教会報『マジス』の発送準備、「合同追悼ミサ」や「長寿の集い」を関連グループと準備しています。訪問はしていませんが教会に来られない方とのつながりを考えています。若い世代の参加者をふやすため、活動時間の変更が今後の課題です。

③富士聖ヨハネ学園支援グループ

1977年に発足した当教会最初の福祉関連グループです。富士山麓にある心身障がい者の施設に月に1回出向き、子どもたちと遊ぶことから始まりました。毎年9月の学園祭で屋台を出し、小さなバザーを開いています。その頒布金と教会祭のバザーの頒布金を寄付しています。

④ベルマーク

教会内外の方に集めていただいたベルマークの整理集計をしています。

ベルマークは1点1円に換算され、ベルマーク財団を通じて富士聖ヨハネ学園の備品の購入にあてられています。高齢化によりメンバーは2、3名ですが、活動は継続していこうと思っています。

⑤四谷おにぎり仲間

路上生活者に向けて、おにぎりの作製と配布、生活保護申請の補助を行っています。5月の活動日、ある女性からメールが入りました。所持金も泊まる場所もないとのこと。すぐに対応することはできませんでしたが、その方は外部団体と連絡をとり急場をしのぐことができました。「協働」していくことの大切さを実感しました。今後は外部団体と協力しながら活動をしていくことを目指しています。

⑥音訳サービス

目の不自由な方のために、会報『マジス』、『カトリック新聞』、『毎日のミサ』、その他依頼されたものなどいろいろな印刷物を読み、録音して発送しています。他教会所属のメンバーも入れて、25名ほどで活動中。音訳は研修や継続的な勉強が必要になります。コロナ禍中は自宅で録音し、発送を続けてきました。新メンバー募集中です。

⑦タラ友の会

1976年よりハンセン病の患者や家族の支援から始まりました。ベドルーナ財団（フィリピン愛徳カルメル会）を通して、フィリピンの養護施設の子どもや山岳民族の教育、大学生の奨学金を援助するための資金を送っています。会員に会報を発送し、現地での理事会に出席、帰国後に報告会を行っています。高齢化が進み、どのように資金集めをしていくかが課題です。

⑧ザーカイ手話グループ

聞こえない人とともに神さまの方へ歩んでいます。日曜10時ミサの手話通訳、ミサ後のろう者との交流、教会行事や講座の手話通訳を行っています。コロナ禍でのミサ配信に伴い、毎週金曜の勉強会はZoomで週2回行われるようになりました。若い世代の人材を募集中です。

⑨カレーの会

2009年から毎週月曜の朝、テレジアホールやヨセフホールにてカレーライスの炊き出し、飲み物の提供をしています。生活保護申請のお手伝い、健康・法律相談も行っています。おしゃべりをしながら密な関係で活動していましたが、コロナ禍中は岐部ホール入口で、カレー弁当をテーブルから取ってもらうスタイルに変わりました。使い捨て容器をどうするかが長期的課題です。

⑩傾聴グループ

2016年に活動を開始しました。誰にも話せない悩み、悲しみや苦しみをお聞きしています。対人援助の経験や学びをした18名が、毎週第2・3・4水曜、お一人30分間、ただただ耳を傾けます。気持ちを整理し、希望を持っていただけるよう、祈りながら寄り添います。現在はコロナ禍により休止中です。

⑪あしたのいえプロジェクト

2020年より活動を開始。実務スタッフ8名とボランティア数名により、生活困窮者に一時的な住まいを提供するため、2つのシェルターを運営しています。教会内外の団体と連携しながら社会福祉活動も行っています。その活動の一つが当教会で行われた「おとな食堂」です。6月にはコロナ禍の外国人の生活困窮を知ってもらうため、オンラインで講演会を開催しました。

⑫海外医療援助切手グループ

使用ずみ切手と未使用切手を集めて整理し、「日本キリスト教海外医療協力会」に送っています。それをコレクター向けに販売していただき、収益を海外の医療援助に役立てています。

主任司祭の講話2

連携を深めながら

問題が多様化する中で、自分たちにできることは何なのかをしっかり問いかけながら歩んでいきましょう。お互いの活動を分かち合いながら、よりよい「協働」を目指したいです。発足する予定の「カリタス東京」をはじめ、外部団体ともしっかり連携していきましょう。グループへの参加の仕方や高齢化によるメンバー不足の声が多く聞かれます。教会祭で大々的にメンバー募集のテーブルを出したり、SNSで積極的に募集してもいいかもしれません。

エコロジーグループ立ち上げ

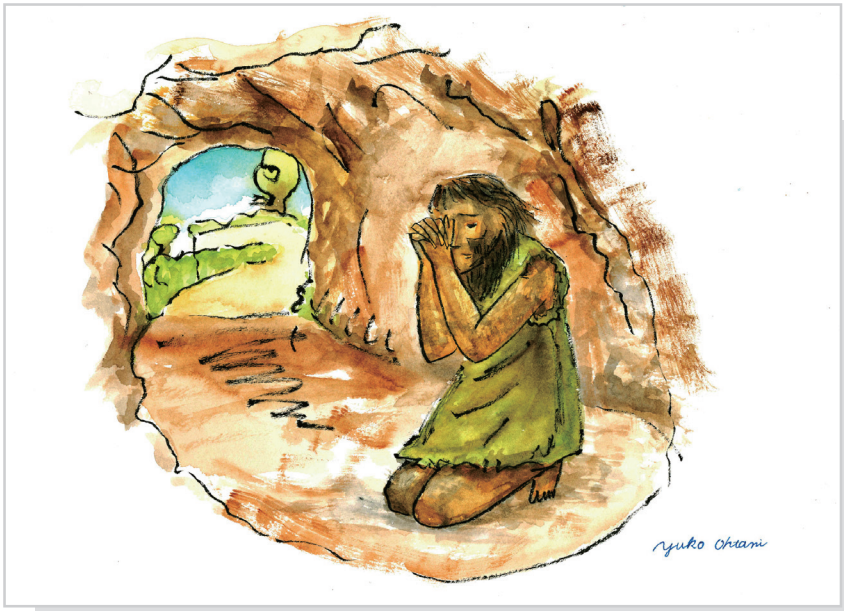
エコロジーは世界規模の問題であり、緊急性のある課題です。近い将来、エコロジーに関連する活動グループを立ち上げたいと思っています。

【詳細は教会ホームページか事務室前などに配架のニューズレターをご覧ください。第3回フォーラムは10月17日を予定しています】（担当H）

IgnatiuS 500
イグナチオ年

聖イグナチオの伝記③
祈りと苦行の日々

主任司祭　英　隆一朗



このころ、神はちょうど小学校の先生が子供を教えるように
かれを教え導かれた。(自叙伝27)

隠遁生活を始める

回心したイグナチオは、モンセラットの聖母像の前で自分を献げ、新たな人生を始める。バルセロナへの道を避け、マンレーサという小さな町に滞在することになった。最初は2、3日の逗留予定だったが、結局、10ヶ月以上もとどまることになる。孤独の中に身をおき、過去の生き方と決別して、イエスの弟子として生まれ変わる時となった。

それまでの宮廷生活では、あまりにおしゃれだった。過去を棄てたしるしとして、髪も爪も切ることなく、肉食やワインをまったくとらず、非常に厳しい苦行の生活を行った。実際のところ、世俗的なもの一切を棄てるならば、心の囚われから解放され、大きな慰めと平安に満たされる。イグナチオは祈りと苦行の日々を始めて、心穏やかな日々を過ごすことができた。毎日7時間を個人の祈りに費やし、近くの教会で典礼（ミサや朝晩の祈り）にあずかり、食べ物は施しをもらうような生活であった。時には心に誘惑を受けることもあったが、それを退けて、苦行を続けていた。

すさみによる浄め

隠遁生活を送ると、神の恵みに満たされるのは確かなことだ。と同時に、それは大きな苦しみと直面する時でもある。イグナチオにも試練の時が訪れる。4ヶ月くらいは平安な日々であったが、次の3ヶ月は暗闇の時であった。総告解(生涯の罪を全部告白すること)を行ったが、それ以後も、過去の罪が数珠つなぎのように思い出されてしまう。毎週告解をしても、罪深さから解放されることがなかった。そのような状態は疑悩（あるいは小心）と呼ばれている。疑悩に陥った人は、神のゆるしと救いにあずかれないという恐れに囚われ、たとえ毎日告解をしても罪深さを拭うことができなくなってしまう。イグナチオは男らしくてマッチョ系なのに、なぜこのような疑悩に陥ったのか不思議に思われる。彼は自殺を考えるほどに絶望の淵に立たされることになる。しかしながら、時が来ると、悪夢の状態から目が覚め、過去へのこだわりをおくことができた。

すさみの体験は、心の浄めのためである。外的な苦行はそれほど難しいことでない。もっと大変なのは、自分の心の暗闇と直面することなのだ。霊魂を浄めるため、神はすさみの時を与えられることがある。心の浄めを経て、人は内的に刷新されていく。

イグナチオはその後、真の神秘体験をすることになる。特に、大きなものはカルドネル川辺での知的示現である。彼は『霊操』の「原理と基礎」を深いレベルで悟ったのであろう。彼に霊的自由（不偏心）が与えられた。その後、極端な苦行をやめ、爪や髪を切り、祝日には肉食やワインも飲むようになった。赤貧の中にあっても、自由な心で、本当の妨げを退け、真に神に導くものを選ぶようになっていく。ここからいよいよ彼の巡礼の旅が始まっていく。

◆自らに問いかけてみる◆

①すさみ（浄め）の時を体験したことがあるでしょうか。その体験によって、どのような霊的進歩があったと思えるでしょうか。

②神の恵みを強く実感したのはどのような時でしょうか。それはあなたのライフスタイルにどのような影響があったでしょうか。

聴き直してみたい「オンライン入門講座」⑤（終）

YouTubeで配信された「オンライン入門講座」（2020年6月から2021年3月）の第32～35回の抜粋をご紹介します。教会ホームページか添付QRコードから動画・音声をご視聴ください。

32回目
キリスト者の生き方（1）
―結婚と独身生活

ハビエル・ガラルダ神父

（2021年2月13日配信）

独身生活について聖パウロが第1コリント7：32で言うのは、独身の人は「どうすれば主に喜ばれるかと、主のことに心を遣います」。

「主のこと」とは聖書の根本です。すなわち「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」（申命記6：5）、「隣人を自分のように愛しなさい」（マタイ22：39）。「シェマ（聞け）」という神の言葉は、神を愛し、人を大切にすることです。イエス・キリストは徹底的にその道を選びました。

イエスが家族を大切に思わなかったわけではないのです。家族の輪を広げたのです。マタイ12：47にあるように、家族が「外に」と言われて、イエスは「ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる」と。みなが自分の家族になるというのです。（編）

下のQRコードを読み取ると動画が見られます

33回目
キリスト者の生き方（2）
―この世を愛する信仰

シスター品川ヨシ子

（2021年2月20日配信）

神の愛の最も素晴らしい作品は人間です。そして、宇宙であり、この地球です。神は、その造られたものをごらんになって、それはきわめてよかったと、おっしゃいました。（中略）。

この世を愛する信仰について、環境問題を扱った初めての社会回勅『ラウダート・シ』から考えたいと思います。（中略）。私たちが、世の誘惑と戦いながら、地の塩、世の光として、わかっているところから、この世界を大切にしなければならないと思います。今の世界、今の時代に、神が語られていることをよく聞いて、神はこの世界を愛された、愛して私たちに委ねられているということをよく知りたいと思います。Sh

動画

34回目
キリスト者の生き方（3）
―運命と試練

岩島忠彦神父

（2021年2月27日配信）

大切な陶器を落とす。職場で失敗し落ち込む。他人と話が通じない…。生きる上での挫折を人は、まだ対応できると思うと「試練」と言い、対応できないと「不条理」と言い、最後は自分の力を越えるから「運命」といいます。

信仰をもつ人の生き方を考えると、運命さえありのまま受け止め、先を見据えて生きる。最終的には小さな自我を捨て、自分に死に神に生かされることがキリストの教えです。麦の粒が地に落ちて死ねば、多くの実を結ぶ。人の一生は、よく死ねるか、です。

体の復活は、生きた間にその人が自身の永遠の命として完成するということです。しっかり生きないと天国でもまあまあの大きさかもしれません。この世での時間の一滴一滴が永遠の生命を紡ぎ出します。この世でしっかりと生きたいものです。（編）

動画

35回目（最終回）
死と永遠の生命
―死・審判・地獄・天国・煉獄

ハビエル・ガラルダ神父

（2021年3月6日配信）

死後の永遠の命を信じますか。死の後に何か残りますか。

なぜ永遠の命があるかといえば、永遠の神が存在していれば、そして神が人間を愛してくださるのであれば、人は死んでも永遠に生きるはずです。実存哲学者のマルセルの言葉ですが、「愛することは、死なないでくれと望むことである」と。聖書を読めば、神は私たちを愛していると何度もおっしゃっていますね。造りっぱなしではなく、愛してくださり、導いてくださる。だから、私たちが肉体的に無になれば、死んでも何らかの形で生きるはずです。

私たちは、神さまが教えてくださることを信じます。キリストの教えも信仰も、私たちが勝手に作る信仰ではないのです。イエスは「わたしを信じる者は、死んでも生きる。…このことを信じるか」（ヨハネ11：25、26）とマルタに言うと、マルタは「（分かりませんが）わたしは信じております」。これは信仰です。分からなくていい。いつか分かります。（編）

動画

◇◇◆◇◇

■全5回の連載にご協力くださったヘルパー＝**藤井良昭、金佳亜紀、佐藤由喜子、白川太一、須賀良子**（順不同・敬称略）＝の皆さま、ありがとうございました。

※（編）はマジス編集による

読んでみよう！

ハビエル・ガラルダ神父 著

『こころのティースプーン　もうひとさじ』

（聖母の騎士社 聖母文庫 1100円 税込み）

ガラルダ神父の教話集『こころのティースプーン』シリーズの最新刊。雙葉学園の保護者を対象にした講話をまとめたものです。

「7月のお知らせ 2（2021年 7 月12日）」から

＋主の平安

今年の梅雨はよく雨が降りましたが、いかがお過ごしでしょうか。6 月末に緊急事態宣言が解除され、教会の活動を部分的に再開しました。ところが、7 月 12 日（月）から 4 度目の緊急事態宣言が発令されました。

それに合わせて、大司教より通達が来ました。活動をより厳しく制限する要請は出ていません。ただ、ちょうど夏休みに入る時期ですから、活動自粛を心がけましょう。8 月中、信徒会館は午後 7 時閉館となります。

1．ミサの実施について

変更はありません。主日はネット予約やグループ予約、平日はグループの事前予約でお願いします。土曜日 12 時の高齢者専用の主日ミサも続けます。

今のところ、感染症対策がしっかりと行われています。参加者の方々もまた心を引き締めて、対策を心がけた上で参加ください。体調に不安がある方は、引き続きご自宅でお祈りください。

2．対面の活動について

大司教の通達には、全面的な休止の要請は出ていません。必要な集まりは、感染症対策をしっかりと心がけ、なるべく短時間でお願いします。会食はできません。

3．イグナチオ年に出された全免償（全贖宥）について

前回の手紙で言及した全免償について説明しておきます。罪のゆるしは、悔い改めの心を神に示すならば、神から無条件で与えられます。人間の普通の気持ちとして、ゆるされた喜びと安心から、新たな生活をしたいと望み、そのため、何か過去の埋め合わせをしたいと願うのが自然の流れでしょう。それを償いと呼んでいます。償いは新しい生活のための薬のようなものです。それは人間が行う業であり、罪のゆるしを完成させる 1 つの要素（罪の内在的結果からの解放）と言えるでしょう。だから、ゆるしの秘跡の後に、何らかの償いの業を果たすことが決められているのです。

全免償とは、教会が特別に認める行いを果たすことによって、罪の償いが全面的に免除される、ということです。通常の信心業で何らかの免償が認められているものもあり、今回のように特別な年に特別な形で付与されるものがあります。規定の業を果たすことによって、全免償の恵みを得ることができます。これは、自分の罪の償いのために、あるいは、他者（生者でも死者でも）の罪の償いとして献げることもできます。

全免償には教皇の意向のために祈ることが条件です。全免償を認可する教皇は、世界の多くの困難に心を痛め、多くの方々のために祈りを献げておられます。教皇の意向のために祈るとは、重大な使命を帯びている教皇を応援する祈りです。教皇のために、ささやかな霊的応援をしましょう。通常は、主の祈り・アヴェマリアの祈り・使徒信条などを唱えます。

この全免償には、巡礼（今回はイエズス会関係の聖堂を訪れること）が条件です。昔の巡礼には大きな困難が伴いました。そこから、何らかの苦しみを神に献げることに意味を見いだすことができます。このイグナチオ年に自分なりに祈りを深め、自分なりに現在の苦しみを献げることは、大きな功徳があるでしょう。聖人の取りなしに支えられて、忍耐と希望をもって信仰の道を歩んでいきましょう。

カトリック麹町聖イグナチオ教会
主任司祭 英 隆一朗

イグナチオ年
全免償（全贖宥）の要件

1．当教会を始め、全世界のイエズス会の教会に巡礼すること
2．ゆるしの秘跡にあずかること
3．ミサにあずかること
4．教皇さまの意向のために祈りを献げること

英語圏コミュニティから

・7 月末に発行された英語版教会報は、イグナチオ年特別版です。聖イグナチオを知ることができる英語のおすすめのリンク、ビデオ、記事、本、映画のリストを掲載しています。ほかに聖イグナチオの霊性を反映した記事も。
・フィリピンの聖職者カウンセラー ロベルト・ブエンコンセホ(Buenconsejo)神父による「この困難な時期において、心の健康を維持し増進する(邦訳)」という英語のセミナーが 8 月 21 日(土)15:30-17:30 に Zoom で開催されます。参加には8月13日までに事前登録が必要ですので、詳細はイングリッシュセンターに問い合わせを。

スペイン語圏コミュニティから

・スペイン語コミュニティでは、7月からロヨラの聖イグナチオの『霊操』に取り組んでいます。毎月２回、１年間かけて配信する予定です。
・7月17日初回は『霊操』のための準備として「聖イグナチオ―現代のキリスト者の模範―」というテーマでアイダル神父様にお話いただきました。私たちは回心に招かれていること、特別な場所に行かなくても日々いたるところで神様に出会えること、聖霊が常に私たちに語りかけてくださるという内容でした。詳細は「San Ignacio, Tokio, Centro Loyola, YouTube」で検索を。

7 月の宣教司牧評議会からのお知らせ

・10 月 10 日（日）の教会祭は、「イグナチオ年を祝う」をテーマとして開催します。安全に配慮し、オンライン併用で国際ミサとイベントを計画しています。

財務報告

・ 6月27日(日) 聖ペトロ使途座への献金 359,865円は教皇様の活動のために捧げます。

10月「クリーンアップ月間」に

・10 月を「クリーンアップ月間」として、土曜日、平日にヨセフホール、テレジアホール、屋外などを来られる方々で清掃します。 6月から秋に延期となった「教会大掃除」では、大勢が集まることが難しいためです。詳細は、ポスター、チラシをご覧ください。　**信徒評議員一同**

教会の夏休み

教会案内所　　8月 9 日(月)～ 14日(土) 夏休み
信徒会館　　8月 1 日(日)～ 31日(火) 19時閉館
告解　　8月15日(日)～ 29日(日) 休み
クリプタは平常通り（9時～ 16時）お参りできます。

教会施設“修繕・保全報告”

教会施設の 2020 年度修繕・保全の主な実施内容と本年度計画についてご報告いたします。

1．2020 年度実施状況

1）空調設備

・電気室空調機更新　318 万円（税込）

2）建築関係

・信徒会館エレベーター更新　7,340 万円（税込）

2020 度は主に空調設備 5 件、電気設備 3 件、給排水衛生設備 1 件を計画（予算 3,350 万円・税込）しました。しかし、コロナ禍による教会の献金収入減少を受け、不可欠な電気室空調機更新のみ実施しました。他は次年度以降に延期といたしました。

また、信徒会館エレベーターは現行機種の部品供給が終了する 2023 年に更新予定でしたが、コロナ禍で人の出入りが少ない今期に　更新工事を繰上げ実施しました。工事期間は 2021 年 1 月～ 3 月。

2．2021 年度実施計画

1）建築関係…マリア聖堂排煙窓作動機器修繕
2）空調設備関係…冷却水ポンプ 3 台修繕
3）消防器具…消火ホース（26 本）更新
4）IT インフラ（インターネット通信回線）整備

・主聖堂、ザビエル聖堂、マリア聖堂、信徒会館各所への LAN 設備増設及び更新

以上、4 件を計画しています。2020 年度と同様、コロナ禍の影響により必要な修繕・保全のみを実施します。予算は 1,700 万円（税込）を計上しています。

特に IT インフラ（インターネット通信回線）整備は以前から課題でした。コロナ禍で、ミサや講座、集会を YouTube 配信、Zoom などのオンラインで行うようになり、その整備が急務となりました。整備のための工事は 9 月(1 ヶ月間) に実施、費用は 1,095 万円(税込)の見込みです。

施設委員会

イグナチオ連壇④

●十字切る　乙女の胸や　初夏の風　（エレーヌ）

●だいじょうぶ　ふあんな　あなたに　ふあんな　わたしが　ささやく　ふあんな　こころと　こころが　ふれあって　じきに　温もってくるから　もう　だいじょうぶ　（どくだみの花）

募集　カトリック信仰生活にまつわる川柳・俳句・短歌・詩などでつなぐ「イグナチオ連壇（イグ壇）」への投稿を募集します。3つのお題（①イグナチオ ②神父様 ③コロナ）の中から一つを選び、作品に入れてください。

【応募方法】①ハガキにて教会事務室あて郵送。または、②教会事務室脇の応募箱に投函
＊応募の際は、掲載するペンネーム（雅号、霊名など）、氏名、年齢を明記
＊未発表のものに限ります
＊作品は**原文のまま**掲載します
【発表】選考の上、適宜マジス紙面に掲載

8 月の典礼と行事

1　（日）　年間第 18 主日	**ロヨラの聖イグナチオの記念日ミサ** イグナチオ・ユース・デー国際ミサ　15：00　主聖堂（ネット配信あり）
6　（金）　主の変容の祝日　初金曜日	**日本カトリック平和旬間（6 日～ 15 日）**＊
8　（日）　年間第 19 主日	**ミャンマーの人々のため・特別献金**
15　（日）　聖母被昇天の祭日	**各ミサとも平和祈願ミサ**
22　（日）　年間第 21 主日	
29　（日）　年間第 22 主日	**堅信式（第 3 回）　10：00 ミサ**

＊今年の平和旬間は、特に東京教区の姉妹教会であるミャンマーの教会に思いをはせ、ミャンマーの人々のために、またその平和のために特に祈るときとしたいと思います。　東京大司教区大司教　菊地功

9 月の典礼と行事

1　（水）	すべてのいのちを守るための月間　10 月 4 日まで
3　（金）　初金曜日	
4　（土）	大地震避難訓練　18：00 ミサ後
5　（日）　年間第 23 主日	大地震避難訓練　10：00 ミサ後　**被造物を大切にする世界祈願日**
12　（日）　年間第 24 主日	子どもとともにささげるミサ　10：00 大地震避難訓練　12：00 英語ミサ後
14　（火）　十字架称賛の祝日	
19　（日）　年間第 25 主日	**敬老のミサ　10：00（中止）**
26　（日）　年間第 26 主日	**教会活動連絡会議　13：00　ヨセフホール**　**世界難民移住移動者の日・献金**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。

主任司祭：英　隆一朗
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　柴田　潔
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　マヌエル・シルゴ
ブラザー：吉羽　弘明
シスター：イベッテ・サンチェス
　　（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
　　（ジョン・デ・プリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間　Mass
【平日 Weekday】
7 :00（聖体顕示）主聖堂　Main Chapel
12:00/18:00（ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認）
【日曜日 Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00/7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）/16:30（English）
【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）
【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp
ホームページ　フェイスブック

マジスへのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。